



奇異雜談集  
四

18  
1790  
4





和  
漢  
奇  
異  
雜  
談  
集  
四

13  
1790  
4



門へ 13  
冊 1790  
巻

奇異雜談集卷第四

目錄

- 一 越後上田の窟として葬る時  
聖雷ありて死人とす
- 二 院の園として死人掘りしりやむる代の致し  
こらひてみし事
- 三 宮根山大金の地蔵として大車とす
- 四 産女乃由來の事





④ 國河上人發心の中來り事

⑤ 河原の西光為め三昧と四り一事

⑥ 三條東洞沈も金葉約一紙あり

菫のららぐり世もさる

⑦ 江州下甲実名らまの歌と心事

⑧ 馬細橋より行むりまららばさる

奇異雜談集卷第四

① 越後上田の店より葬り時雲雷とさるて死人と心事

わが人々りていそくありこれ上田の店より寺あり  
云々  
つんざりて人々いそくあり大なる心事  
とらひて心事。下火の松の心事  
時々の心事一ひり。龜の心事はやららるりて。龜の蓋を  
て心事にて。死人と心事にて。死人の足より心事にて





わがち。長老もともなる。鬼道。くもく。はた。は。さ。て。たり  
 して。た。の。が。ち。ま。ま。一。ま。づ。り。あ。づ。の。く。ま。回。り。ま。ま  
 ゆく。して。死。人。の。ち。ゆ。く。よ。長老。の。ま。ら。し。て。龍。の  
 一。ま。ま。ち。よ。め。ん。の。り。も。と。け。死。人。と。し。り。て。龍。の  
 ろ。か。ら。り。雷。面。面。の。く。め。も。長老。の。ま。ら。し。て。あ。り。て  
 は。井。の。下。大。と。ま。と。り。り。夢。中。さ。う。ぬ。ん。く。れ。ま。し。  
 長老。の。ま。ら。し。ん。強。執。な。り。の。く。も。く。の。死。人。な。り。と。も。め。ん  
 も。く。く。し。と。法。人。の。り。り。そ。の。道。よ。ま。ま。と。め。り。思。は。ま  
 儀。ま。ら。し。ん。大。車。に。て。雷。面。の。ま。ら。し。て。記。す。り。あり。  
 げ。葬。の。日。ら。ち。ち。ま。ま。の。死。人。の。葬。の。日。ら。ち。ち。長老  
 雅。意。の。ま。ら。し。し。だ。く。葬。の。日。の。ま。ら。し。て。の。ま。ら。し。て























時接よとれど胎心たうしんのみ死しを告つて時ときをくじりたる母  
 の魂魄こんぱくこころゆかりしむとて年としをよて夜よ  
 るくぞと赤あかみのあしとよあつていりたりもつ  
 もらう胸むねらりしと魚うしほもあつていりたりもつ  
 入りしとよあつて負おていりたりもつ  
 て負おつて人と結むすぶよみとつひはくつりたりもつ  
 このゆゑに人ひとと結むすぶよみとつひはくつりたりもつ  
 の産うぶめけり。姑獲こくわくをとりり。唐たうよ姑獲こくわくとらふと日本よめ  
 の産うぶめけり。姑獲こくわくをとりり。唐たうよ姑獲こくわくとらふと日本よめ  
 よのせり。そら又またよつて一ひと名なの乳母ちち鳥とりよ公こうを産うぶ  
 婦むすめ死し一ひと変化へんげしてとらふよけり。人のよとつて  
 りつてこころみと。胸むね前まへよあ乳ちちわりとらふ。是こゝろに人ひと

のよびつて秋あきよりして乳ちちとのよとて年としをよて夜よ  
 人の乳母ちちよはらゆ人ひとよ。乳母ちちをとりり。唐たうよ姑獲こくわく  
 人ひとよつてこころみと。胸むね前まへよあ乳ちちわりとらふ。是こゝろに人ひと  
 もつて人ひとと結むすぶよみとつひはくつりたりもつ  
 とらふよ。一ひと名なの乳母ちち鳥とりよ公こうを産うぶ  
 婦むすめ死し一ひと変化へんげしてとらふよけり。人のよとつて  
 りつてこころみと。胸むね前まへよあ乳ちちわりとらふ。是こゝろに人ひと  
 のよびつて秋あきよりして乳ちちとのよとて年としをよて夜よ  
 人の乳母ちちよはらゆ人ひとよ。乳母ちちをとりり。唐たうよ姑獲こくわく  
 人ひとよつてこころみと。胸むね前まへよあ乳ちちわりとらふ。是こゝろに人ひと  
 もつて人ひとと結むすぶよみとつひはくつりたりもつ  
 とらふよ。一ひと名なの乳母ちち鳥とりよ公こうを産うぶ  
 婦むすめ死し一ひと変化へんげしてとらふよけり。人のよとつて  
 りつてこころみと。胸むね前まへよあ乳ちちわりとらふ。是こゝろに人ひと



の衣きぬをぬきていととまんだとの衣ようかゆへは姑  
 獲とり血その衣よ無えとふりりれとみく姑獲をと  
 りさるらうととまんだり姑獲とを産婦死して  
 衆たげりゆへんよその身血よめりうう目にりりと  
 小ぢ鬼の衣と衣卵よめとこ衣いじと母成あり

④ 國河上人 教公由來の事

聖山せいざん正法寺しょうぼうじの用山ようざん國河上人こくがじゆんの晩ばんを家けりり正せい谷やをん  
 時ときを公方ほうやりとまんれんめく名字の持ぢ傍ぼう名なを國明くわうめい  
 とまつら持ぢ傍ぼうの名の領主りやうしゆなり相國さうこく麻ま花け寺じ  
 殿でんへのされくのやりり時旅りよ宿しゆくとまつら小こ山ざん麻ま花け寺じ  
 殿でんらく遊ゆう遊ゆうののわらりよ河がり河海かいのの玉ぎよく舟ふね生なまりる

































九 細橋のつらき  
 尾後のはらふる而してつらき。積人十でめんありま  
 ぐんし女房なり。法本よめわして結實る代とてふ  
 くめわらふめくささくせしむ。これらほしむわらめ  
 らるるまゝとてしむるにせしむるせしむるにせしむる  
 く。用と弁し移く。道二三町ゆげと山際より川あり川の  
 せしむ六七間あり。大木と二のよめとありて一橋あり  
 もこのまはれしものひろくそそ天あり。とあるとてい  
 けり。橋のまはれしよわたり下とせんせき多くかん  
 とそひへくものるに流ありとありてせしむ。これら  
 橋のよとありしとていふ。



尾後





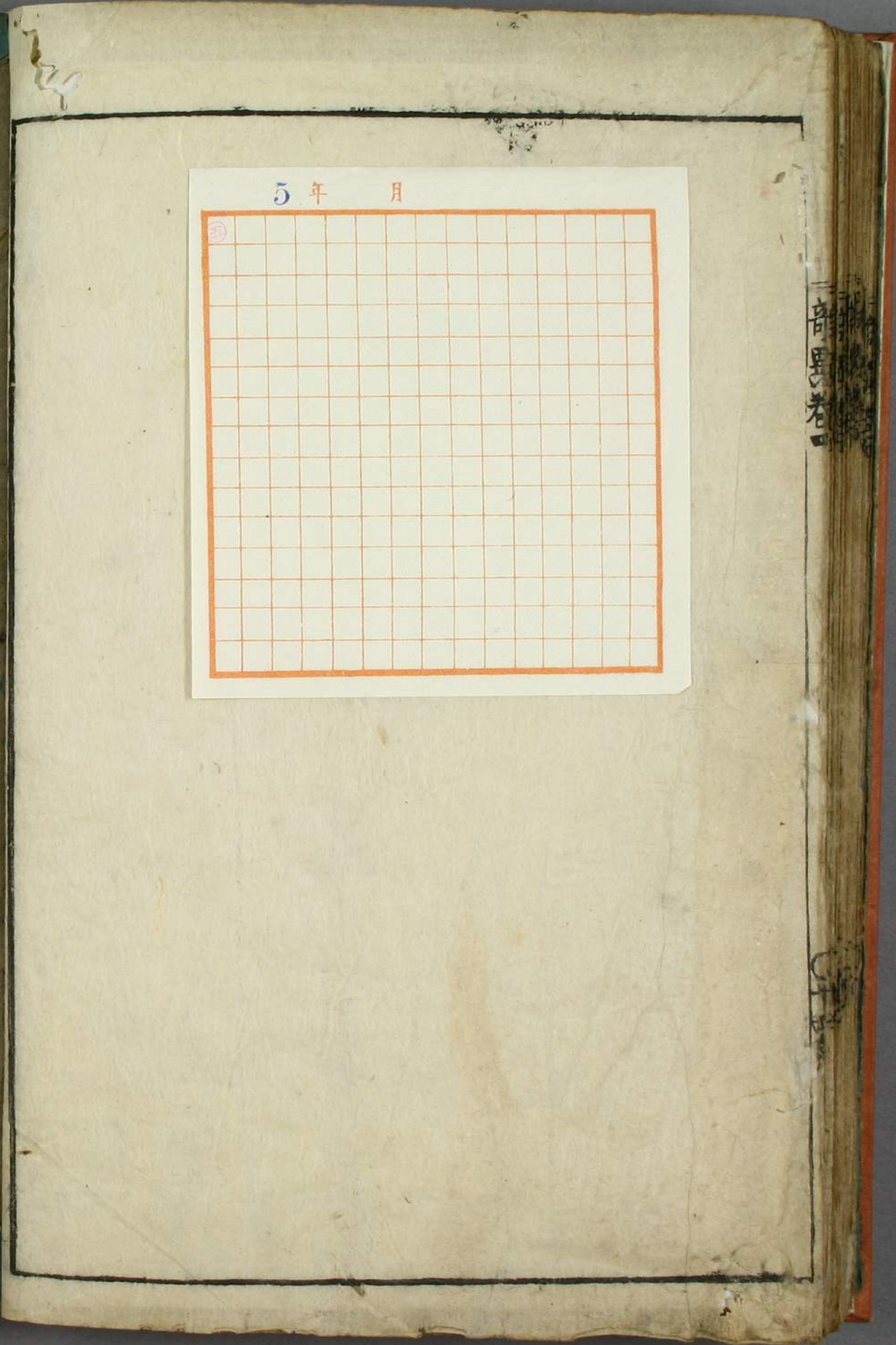
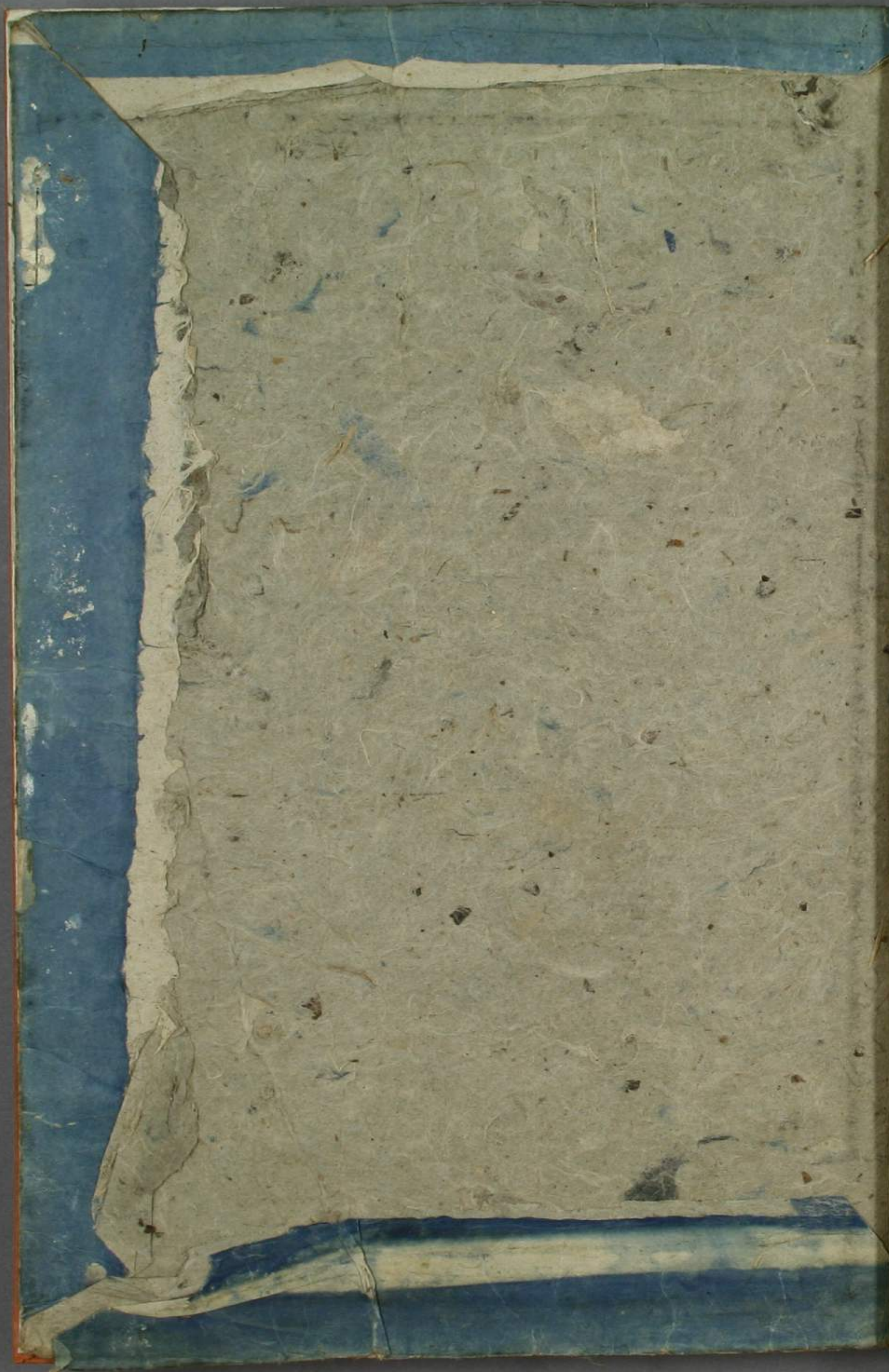


いふ所もわんをさぐら。洞法もあつていふ所の  
おぼへて。長竿二の徳のされ二三人あつてわつし  
さき二三把のせつ一の竿はれぬおまを一把  
みよはつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
るらつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
らつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
二とすつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
てつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
わつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
らつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
がつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて

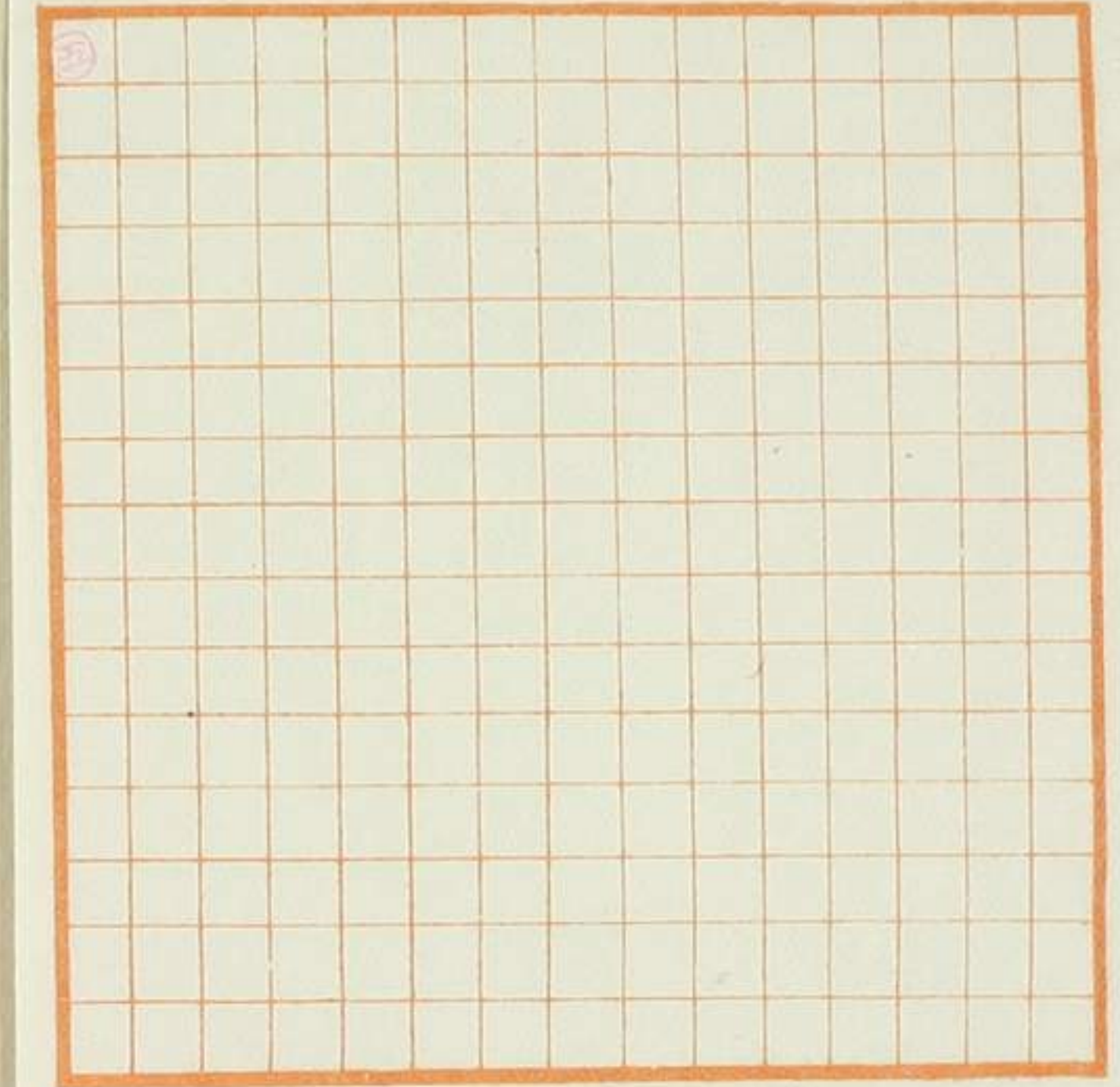
一のわつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
らつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
安徳あつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
おつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
果つてつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
らつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて

奇異雜談集卷第四終





5 年 月



音異卷四





音異







